

ゼロカーボンシティを目指して

地球温暖化による気候変動は、避けて通ることができない喫緊の課題であり、異常気象による被害の増加、農作物や生態系への影響等は当町にも出始めております。

秋鮭をはじめとする水揚げ量の減少も、海水温の上昇が1つの要因ではないかと言われているところであり、気候変動対策は「知床羅臼SDGsステートメント」において重点目標に設定している項目であります。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、目標の実現には2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要とされております。

こうした状況を踏まえ、昨年、国は「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする脱炭素社会の実現を目指す」ことを国際公約として世界に宣言しました。

羅臼町は世界自然遺産「知床」を有するまちであります。

この豊かな自然の恵みを守り、安心して住み続けられる「知床 羅臼」を未来につないでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指してまいります。

令和3年3月16日

羅臼町長

張 彦 穂